

## 令和3年度宮沢賢治記念館運営審議会会議録

### 1 開催日時

令和3年7月5日（月） 午前10時00分～午前11時34分

### 2 開催場所

花巻市高松第1地割1-1 宮沢賢治イーハトーブ館 講義室

### 3 出席者

#### (1) 委員7名

瀬川卓哉委員（宮沢賢治・花巻市民の会会員）、高橋俊吉委員（早池峰賢治の会事務局）、玉山領一委員（石鳥谷賢治の会会長）、小原節子委員（宮沢賢治・東和の会会長）、堀合範子委員（花巻ユネスコ協会事務局長）中島健次委員（矢沢地域振興会会長）、多田章委員（矢沢地域振興会理事）

#### (2) 事務局（宮沢賢治記念館）4名

市川生涯学習部長、清水館長、佐々木副館長、宮澤主査

### 4 議題

#### (1) 令和2年度事業報告について

#### (2) 令和3年度事業計画について

### 5 会議録

**清水館長**：それでは、次第に沿って進めさせていただきます。本日は、委員7名全員の出席でございますので、宮沢賢治記念館管理運営規則第9条第2項の規定により、委員の半数以上が出席しておりますことから、会議が成立することをご報告いたします。

ただ今から宮沢賢治記念館運営審議会を開会いたします。開会にあたりまして、市川生涯学習部長よりごあいさつを申し上げます。

**市川生涯学習部長**：皆さん、お忙しいところお集まりいただきまして大変ありがとうございます。今回はイーハトーブ館での開催ということで、賢治記念館の会議室は、ご承知のとおり窓がなく、換気ができる場所の方がいいのではと事務局が考えまして、こちらの方にさせていただきました。併せまして、こちらの展示などもご覧いただければと存じます。ご承知のとおりコロナウイルスの影響で昨年度の入館者数は落ちておりますし、今年度も少ないという状況であります。ただ、修学旅行の小学生、中学生はかなり増えているというふうに聞いています。そういう状況下で、今年は東北デスティネーションキャンペーンという、JR各社が東北にお客様を呼ぼうというイベントをいろいろ開催している中で、9月には「雨ニモマケズ」の実物の手帳を展示するという状況でありますし、コロナウイルスが少し落ち着いてくれればなというふうに思っているところです。また、オリンピックもあつたりして先が見えない状況で、東京も感染者数が少なくなっているのか多くなっているのかなかなか見えないという中で、我々もお客様を呼んで少し盛り上げたいというところもあるんですが、そのへんは痛し痒しというような状況でありまして、その中でも事業を着実にやりながら、コロナが収まった後にたくさんの方が来られるようにということも考えながら進めていかなければいけないなというふうに思っております。今日は、昨年度と今年度の事業を説明させていただいて、ご意見をいただ

きたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。終わります。

**清水館長**：それでは、次第3の議事に入らせていただきますので、中島会長は議長席にご移動をお願いいたしまして、ごあいさつを頂戴した後、議事の進行をお願いいたします。

**中島会長**：おはようございます。今日はイーハトーブ館での開催ということで、私は地元なのでしょっちゅう来ます、入館料はタダなので。企画展示が非常に興味深いといえますか、工夫された企画展示をしょっちゅうやっているということで、こういうところでやるのもいいのかなと改めて思っています。先ほど部長さんから申されておりましたが、何をやってもコロナということで、私どもの社会生活といえますか日常生活もガラッと変わりました。今日の下での展示のテーマは東日本大震災の写真ですが、このコロナもある意味、大災害であろうというふうに思います。賢治記念館を取り巻く状況も、これは避けて通れない状況ということで、賢治さんは息の長い方でございますので、いつか収まるであろうこのコロナを見据えて、今後とも魅力的な賢治記念館の在り方ということについて、私どもも協力を申し上げていきたいというふうに思っております。本日は事業報告と事業計画ということでございますので、よろしくご審議をお願いしたいと思います。

それでは早速議事に入りたいと思います。令和2年度事業報告について、説明をお願いいたします。

**佐々木副館長**：おはようございます。説明させていただきます私は、本年度より宮沢賢治記念館とイーハトーブ館の副館長を務めさせていただくことになりました佐々木と申します。不慣れなところお聞き苦しいところあるかもしれませんが、務めさせていただきますので、よろしく願いいたします。大変恐縮ですが、以降座って説明させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、令和2年度事業報告についてご説明いたします。資料は1ページでございます。1入館状況と対応についての(1)入館者の状況についてでございます。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止措置として前年度の令和2年3月2日から5月31日までの間、臨時休館ということになりました。また、直筆稿などを展示する3つの特別展を日程を変更しながら開催いたしましたけれども、年間の入館者数は、資料の表にございますが、53,860人で行いました。前年度の入館者数が121,756人で行いましたので、人数にいたしまして67,896人、率にいたしまして55.8パーセントの大幅な減少となりましたが、先ほど部長の方からも話がありました、一方で修学旅行など教育旅行で来館されました小中高生の人数が11,417人となりまして、前年度の4,696人と比較いたしますと教育旅行の部分では人数にいたしまして6,721人、率にして143.1パーセントの大幅な増加がみられました。次に(2)対応の状況の①開館日等の状況についてでございます。先ほども触れましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年度におきましては、4月1日から5月31日の間、臨時休館となりました。6月1日からの再開後は、例年のこととはなりますけれども、入館者の利便に供するために条例で本来休館日としております月曜日を開館いたしました。また、毎年1月2日に開催される胡四王神社蘇民祭に合わせまして当館も開館しておりますが、令和3年の蘇民祭は中止となりましたものの、当館は例年どおり1月2日から開館し、観光客等の来館に対応させていただいたところですが、令和3年1月2日の入館者数は87人ほどでした。前年度、令和2年1月2日は422人で、87人の入館者はそれでもあったとみるか大幅な減少とみるかはいろいろあるとは思いますが、参考としてお伝えするところです。次に②繁忙期の対応についてでございます。こちらに関しま

しては、資料別紙1というものをお配りしているかと思っておりますので、併せてご覧いただければと思います。横書きの表になっていて、右側の上に別紙1と書いている表です。これが各日の状況なのですが、7月23日からの夏休みの期間と賢治さんの命日にあたります9月21日前後が繁忙期でして、この繁忙期間に童話村とイーハトーブ館と宮沢賢治記念館の駐車場を結ぶシャトルバスをこの年は17日間、1日あたり18回運行させまして来館者の利便を図ったところがございます。また、このシャトルバスの運行期間を含めまして、7月から10月までの間の交通整理というのも必要だということで、計38日間、延べ127名の警備員を配置しまして、来館者の皆様の安全誘導に努めたところがございます。資料の1ページに戻っていただきたいと存じます。③解説案内、レファレンスの対応についてでございます。こちらに関しましては例年どおり、入館者より要請があった場合は、団体入館者を中心に花巻観光協会の観光ボランティアガイドに館内解説や案内等に対応していただいておりますし、学習、調査、取材に対しましては当館の学芸員が対応しているところがございます。資料の2ページ目に移らせていただきます。2 主要事業、賢治のまちづくり推進事業についてでございます。ご承知のとおりですが、賢治のまちづくり推進事業は、市が賢治の香りあふれるまちづくりということで進める施策の一つでございます。当館のほかには賢治まちづくり課、生涯学習課という3つの機関で対応しているものです。以下は当館で対応しているものです。(1) 特別展の開催ですが、以下の3つの特別展を実施したところです。①童話「四又の百合」は、開催期間を令和2年7月15日から9月13日までとして特別展示室で開催いたしました。直筆稿を展示した9日間の入館者数は、資料にございますとおり、2,105人でございます。2つ目、②宮沢賢治と棟方志功、こちらは期間を令和2年9月19日から令和3年1月31日まで、直筆稿の展示を18日間やっておりますが、この間の入館者数は4,576人ございました。3つ目、③童話「なめとこ山の熊」なのですが、こちらは期間を令和3年2月6日から5月9日、直筆稿の展示期間は9日間でございます。この間の入館者数は481人でございます。資料の3ページ目に移らせていただきます。(2)「賢治の世界」セミナー・ワークショップ等の開催でございます。こちらに関しましては、別紙2という横書きの表がございまして、こちらが実績を表にまとめたものでございますので、併せてご覧いただければと思います。また、本日追加資料といたしまして、「賢治の世界」セミナー記録集第10集という冊子をお配りしております。こちらの方はその詳細を取りまとめたものでございますので、後程ご覧いただければと思います。資料の3ページの方に戻っていただきまして、①「賢治の世界」セミナーでございます。こちらは宮沢賢治の作品世界や生き方を学ぶセミナーということでございまして、8月から12月にかけて市内小中学校及び花巻農業高校を対象に講座を開催したものです。その実績は、実施校13校、回数にいたしまして15回の開催となりました。次に②「賢治の世界」ワークショップでございます。令和2年度におきましては、先に説明いたしました特別展「四又の百合」の開催に併せまして、胡四王山にユリの花がいっぱい咲きますので、このユリを中心に賢治作品に出てくる様々な植物をご覧いただくということで、この資料にありますとおり令和2年7月18日に「夏の胡四王山散策」というものを実施いたしました。このときの参加者は14人ございました。これは屋外だったので開催することができたのですが、資料にありますとおりこれ以外に4つのワークショップというものを企画していたのですが、コロナ禍のために中止せざるをえなかったところがございます。次に③ギャラリートークの開催についてでございます。こちらに関しましては、資料にありますとおり館内展示解説とか特別展でやっている内容を当館の学

芸員によってギャラリートークということでもっと深く知っていただくというものだったんですが、これもコロナ禍のためにすべて中止となってしまったところがございます。資料4ページ目に移らせていただきたいと思います。3 各種行事等の開催というところがございます。当館が開館したのが昭和57年9月21日で、その9月21日の開館記念日に例年、館内でコンサートとかをやっていたんですけども、コロナということでイベントは開催いたしませんで、オリジナルで作成した缶バッジ600個ほどを来館いただいた方々に先着順でお配りしたものでございます。4 目、記念館年報・記念館通信等の発行というところ。令和元年度の年報は10月に150部発行、記念館通信は9月と3月に各300部ずつ発行いたしまして、記念館通信は委員皆様の方にもお届けしているかと存じます。5 目、環境等の整備について、(1) 主な施設整備というところがございます。5つの所をやっております。このうち2点目の「アケビ木造やぐら修繕」というのは、南斜花壇にアケビの柵を作っております、アケビのツルが巻き付くようなものがあるんですが、このやぐらを作り直したものでございます。3点目の「アプローチ側面生垣土留柵修繕」というのは、記念館の門から記念館に行くまでのタイル敷きの通路の記念館に向かって右手側と申しますか、胡四王神社側の法面の土壌流出を抑えるために柵を設置し直したというものでございました。5点目、最後の「各所塗裝修繕」というのは、施設の長寿命化を図るために駐車場内にあります東屋とか、南斜花壇内にあります木製の渡橋ですとか、複数箇所ありますがベンチ、あとは擬木の柵というところをまとめて、複数箇所まとめて塗装し直したというものでございます。(2) 周辺環境の整備というものは、例年のおりでございますが、国道から記念館までの登り道の草刈りとか植栽の管理ですとか、記念館の玄関前に賢治さんゆかりのバラを植えているんですが、「グルス・アン・テプリッツ」といいますが、この花壇の管理を行っております。南斜花壇周辺の樹木の伐採については、これまでどおり農村林務課の方で行っているところです。このほか、毎年ですが、6月から9月にアプローチに花農のPTAさんの方から提供いただいたプランター、10月には菊花愛好家の人たちから提供いただいた菊の鉢を設置させていただいております。最後に「企業の森活動」ということで、南斜花壇の一番麓と申しますか、イーハトーブ館側から入ってすぐの所なんですけれども、こちら2反歩、3反歩程度の植樹していただいた所を日東工業株式会社花巻営業所の皆様に草刈りを2回やっていただいております。最後でございます。(3) 宮沢賢治記念館所蔵資料直筆稿の修繕ですけれども、記載のおりでございます、合計55枚の修繕をしてございます。事業報告については以上のとおりです。よろしくお願ひします。

**中島会長**：ありがとうございます。ただ今、事業報告についてご説明いただきました。皆さんの方から何かご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

**瀬川委員**：2点ほどお聞きしたことがあるんですけども、特別展の開催のことで、今年に入ってから「なめとこ山の熊」、これ結構人気がある童話だと思うんですけども、「四又の百合」とか「賢治と志功」に比べて来館者が少ない。これはやっぱり今年になって新型コロナの影響が考えられるということと、あと9日間ということも考えられると思うんですけども、一般の関心がなかなかそそられなかったのか、なにはともあれこのコロナの影響が一番大きかったのか、そのへんはどのように分析といたら大げさなんですけれども、どうしてこういう感じになったのかというのを、そちらの見解というものをちょっとお聞きしたいなと思います。

**清水館長**：基本的にはコロナの影響で来館者が極端に少なくなっていて、そして「な

めとこ山の熊」展の開催時期が2月から5月までということで、5月のゴールデンウィークもあまりお客さんが多くなかったので、こういう結果になったということだと思います。全体的に入館者が少ない中での期間限定の直筆稿の公開なので、どうしてもこういう数字になります。企画が悪くてとか、そういうものではないというふうに考えております。

**瀬川委員**：去年のゴールデンウィークと比べても今年のゴールデンウィークは、やっぱり来館者はかなりコロナの影響を受けたということですのでよろしいですね。

**清水館長**：去年のゴールデンウィークは臨時休館しておりましたので、一昨年の令和元年と比較しますと半減どころではないですね。例年だと1日、千人とか2千人とか来るのですが、今年はそんなことはなかったのです。

**瀬川委員**：周辺環境の整備というところで、植栽管理とか花壇の整備をやられていますけれども、農学校のPTAからアプローチにプランター花を提供していただいているということで、非常にこれはいいことだと思うんですけども、生徒さんたちに南斜花壇の整備とか、そういうことを1回お願いしても、これは学校側の都合もあるとは思いますが、そういうのもあると一層いいんじゃないのかなと思いました。

**清水館長**：南斜花壇に植えている花の苗は花農さんから購入しております、それを植えたり管理していただいているのはシルバー人材センターさんなんです。もう長年にわたってやっていただいているので、これを高校生に替えるのはなかなか難しいかと思います。高校生が授業の一環として来て何かをしてくれるというお話があれば、こちらも考えはしますが、こちらの方から学校に生徒さんを出していただきたいというお願いはちょっとしづらいところはあります。

**瀬川委員**：ずっとシルバーさんに協力してもらって今までやっていたということですね。

**清水館長**：はい。シルバーさんも地元の会員の人たちにやっていただいています、もうずっと同じ方に何年もやっていただいているので、大分慣れた方々です。

**瀬川委員**：それは年にどのぐらい頻度でやられているんですか。

**清水館長**：4月から11月までの間で、週2回程度来ていただいております。

**中島会長**：そのほかございますでしょうか。

**小原委員**：「企業の森活動」というので、いつも日東工業さんが草刈りをしてくださっていると前回も聞きましたが、よその企業にも何件かだしていてもここだけということですか。

**清水館長**：実はこちらからお願いしているのではなくて、日東工業さんの方から自主的に毎回きていただいているものです。

**小原委員**：「企業の森活動」というのは、企業さんに一生懸命アプローチしたわけではないんですね。わかりました。ありがとうございます。

**中島会長**：ちなみにこの日東工業さんは全国展開の企業さんで、会社の方針でそういう植樹とか、まさに緑の環境づくりに取り組んでいる企業です。本社は愛知県にあるんですが、やっぱりその会社も緑に囲まれています。賢治記念館のほかにもやっているはずですね、花巻市内で。

**清水館長**：学校図書で購入費用にということで、市に寄附をくださったりもしています。

**中島会長**：広がればいいんですがね。なかなか余裕のない時代になってきましたけれども。そのほかございますでしょうか。

**瀬川委員**：市民の会の方からということで、私きているんですけども、6月16日に

市民の会で集まりをもった時に会の方の人たちからちょっと意見を聞いてきたんですけども、その中で賢治記念館に関して、このコロナの状況下で入館したところ、パネルの方の映像、これがタッチしても機能しないときがあったそうなんですけれども、これはいつもそうなのか、コロナ対策ということで接触を避けているのかも知れませんが、言ってみれば料金は普通料金だったのにちょっとがっかりして帰ったみたいなことを言っていたんですが、これに対する対策とか、それに対する説明というのが館の方からされていたのかされていなかったのか、そのへんをちょっと聞いてこいということと言われてきたんですけども、そのへんはどうなんでしょうか。

**清水館長**：パネルというか、テレビモニターですね。タッチパネルになっていて、触ると解説だったり作品の朗読だったりというものがあるんですけども、それはヘッドフォンを使っていただく形になっているんです。このコロナの中でヘッドフォンを触ってかけて、それを毎回消毒してまた次の人に使ってもらうというのは物理的にちょっと不可能ですので、モニターは展示室の中にも数台あるんですけども、それには利用中止中という張り紙をしてありますので、基本的にモニターを触ることがないようにしております。今は使えないようにしております。それを来館者の方に説明しているのかというと、それぞれ具体的にお話をしているわけではありませんが、今は休止中という張り紙をしてお知らせしている状況です。いつまでもこういう状況でいいのかといわれると、私どももせっかくあるコンテンツなので来館者に見ていただきたいと思っておりますので、予算が絡む話にもなるんですけども、少し工夫をして、ヘッドフォンを使わないで周りに音が漏れないようないいものがないかなとちょっと探している状況で、それが実際にできるものがあるればやりたいなと考えているところです。予算も絡んでくるものですので、今やりますとはいえないんですけども、そういう状況でございます。

**中島会長**：そのほかございますでしょうか。

**瀬川委員**：ボランティアガイドが要請があったときに説明にあたっているということなんですけれども、今、ボランティアガイドさんというのは何名ぐらいいらっしゃるって、来館者が減っている状況でどのぐらいの要請があるのか、そのへんどうなのかっていうことをお聞きしたいと思うんですけども。

**清水館長**：登録をしていらっしゃるガイドさんは十数名だとお聞きしております。活動状況なんですけれども、当館から直接ガイドさんをお願いするわけではなくて、来館者さんの方から観光協会さんの方に連絡して依頼してもらう形ですので、当館で実績をカウントしているわけではないんです。今は、修学旅行でいらっしゃる児童生徒さんにガイドさんがつくケースが多いように感じています。そのほか、それ以外にも数人の団体で頼むケースも見受けられます。

**瀬川委員**：この話の流れの中で、比較していいものかどうかはわかりませんが、東山の石と賢治のミュージアムでは、館長さん自ら説明にあたりたりとか、個人のお客さんに対しても、規模にもよると思うんですけども、そういうことをされているということを知って、賢治記念館に伝えたいのはサービス精神が感じられないというのは私の意見じゃなくて、市民の会の方の話なんですけれども。ボランティアガイドさんの活用というものも含めて、常駐の学芸員さんの配備も含めて、もうちょっと個人客に対してもそういう説明というか、伝えるというような意欲が感じられるような賢治記念館になっていただきたいなという意見が出ました。これに関しては、ちょっとどのように思われているのでしょうか。

**清水館長**：コロナ前までは、年間十数万人の来館者がある中で、当館の学芸員として

は基本的に対応してこなかったわけですがけれども、今、コロナによって来館者が減っておりますので、学芸員の人数が少ない中で学芸員の予定が空いていればそういった対応は可能かなと思いますけれども、少し検討させていただきたいと思います。

**瀬川委員**：要は、気軽に要請できるような体制というか、そういう仕組みみたいなものをつくって欲しいということだと思っておりますので、そのへんも含めて。というのは、リニューアルして以来、ちょっと専門的になったきらいがあるという声が非常に多いので、その点で初心者の方もとつきやすいような、ボランティアガイドも含めてなんですけれども、質問しやすいような環境があってもいいんじゃないかということだと思っておりますので、これは前から言われているようなことだったので、ぜひそのへんを検討していただければと思います。

**市川生涯学習部長**：一人につきすべて一人ついて説明するというのは、厳しいなというのはご理解をいただけるかなと思います。例えば、入館者が多い館ほどそういう課題はありまして、団体で申し込みがあればというのはありますし、学芸員も人数がそんなにいるわけではないので、なかなか説明はしづらい、東京の博物館なんかも当然そういう状況ですよ、大きい展示になれば。そういう中で、コロナウイルスもありますので、例えば今、主流になりつつあるのは、個人にヘッドフォンを貸して解説を自分で聞きながら行くというのがあります。そういうのがやっぱり詳しく聞きたくても、人に説明を聞くのは嫌だとおっしゃる方もありますし、そういう自分が調べながら聞きながら、自分のペースでやれるというのが主流になりつつある感じです。あるいはネットを通じてという大変ですが、テープとかそういうのではなくて、通信をしながらやるなどというのもあります。本当にこのコロナウイルスがどうなるかわからないんですけれども、やっぱりこういう記念館とか展示館ではいろんな新しいやり方を考えていますし出てきていますので、予算がかかることなのでそこもありますけれども、そこも含めて検討させていただければというふうに思います。

**中島会長**：そのほか皆さんから。

**堀合委員**：いつも記念館のいろいろな事業にご案内をいただいて大変ありがとうございます。同封されてくる企画案内のハガキが大変好評で、あのサイズというか絵もきれいなんですけれども、大変喜ばれております。残ったものはいろいろな集まりで配布して、PR効果も大変大きいのかなと思っております。ありがとうございます。それから、コロナ禍で修学旅行生が増えたということで、コロナ禍であまりいいことはないのではないかなと思っておりますが、ぜひ賢治記念館を知って欲しい若い人たちの来館が増えたということはそういう中でも嬉しい情報だったなと思っております。やはり県内でも今まで県外に修学旅行に行ったけれど今年は県内に切り替えたという学校さんも大変多いようですし、一関あたりの学校は盛岡に行っていて、初めて県都盛岡というものを知ったという、普段は宮城県の方に行っているんですけどという声もあったというふうに聞いております。これが若い人たちがもっともっと入ってくることに繋がればなそう思っております。以上です。

**瀬川委員**：もう一つ、喫茶コーナーってありますよね。あそこは、以前は写真パネルとか小作品とか何かそういった関連のものも展示されながら、結構利用されていたというふうなことだったと思うんですけれども、最近はどうなっているのか、今はあまりあそこにも人影見ないなど、来館者が減っているから当然だとは思いますが、ちょっと賢治さんに会いに来たみたいな雰囲気が出たんですけれども、何かそういうパネルの展示とかそういった予定というか計画というものはあるものなんでしょう

か。

**清水館長**：コロナ以前、あそこにはぎっちりテーブルとイスを置いて、宮沢賢治記念会さんの方で飲食の提供をしていたんですけども、コロナになって席を間引きして、3分の1ぐらいの座席しかないんですが、そこでコーヒーとかソフトドリンクの提供はしております。パネルというお話ですが、ちょっとわかりかねます。

**市川生涯学習部長**：新たに展示してほしいということですか。今、あるにはありますよ。

**瀬川委員**：それは多分、定期的に展示替えがあったんじゃないんですか、前は。

**宮澤主査**：展示替えはしていませんけれども、童話作品が見られるモニターは設置してありました。それも先ほど説明があったとおり、ヘッドフォンをつけてタッチパネルで選んで見るようなタイプのものでした。どちらも今は使用が難しいなということで、撤去してない状態です。パネルの入れ替えというのは行ってはいないです。

**瀬川委員**：入館料が必要なのかどうかわかりませんが、ちょっと会いに来たという雰囲気は前があったというふうに言われるんですね。そういった何かちょっとくつろげるスペースというものが記念館の中にあれば、あそこは見晴らしもいいので、ちょっとそこを有効活用して欲しいということだったと思うので、できればそのへんのことでも検討をお願いできればということでした。

**清水館長**：コロナが収まらない限りは、ちょっと座席を増やすのは難しいのですが、今の状態でも十分くつろいではいただけていると思っております。

**中島会長**：確かに今、瀬川さんが言ったように中の展示を見ることも大事だけれども、喫茶コーナーというのは外の景色が素晴らしいじゃないですか、ロケーションが。あそこでふっと休めるということも相乗効果があるということですね。

**清水館長**：喫茶コーナーだけに入るのであれば入館料はいただけていないので、コーヒーだけ飲みをいっしょにお客様もいっしょにします。

**瀬川委員**：極端な話、実は外回りのベランダをぐるっと回廊的にすれば素敵だなという話もあったんですけども、これは何か構造上非常に難しいということらしいので。要は環境的にも素晴らしいと思うので、何かそういったものでくつろぎながら楽しんでもらえればいいんじゃないかと、そういう話がありました。

**清水館長**：南斜花壇側のベランダというのは、管理用のベランダで回遊するようには造っていませんので、ちょっとそれは難しいと思います。

**中島会長**：次の事業計画の時も戻ってのご発言も可能でございますので、それではこの事業報告については原案のとおり承認するというところでよろしいでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

**中島会長**：はい、ありがとうございました。

続きまして、次に令和3年度事業計画について、ご説明をお願いしたいと思います。

**佐々木副館長**：それでは、資料は5ページ目でございます。令和3年度事業計画の1主要事業、賢治のまちづくり推進事業ということでございます。(1) 特別展の開催ということでございまして、資料にございますとおり3件の特別展の開催ということで、内容は共通して賢治さんが羅須地人協会の講義用に作図した「教材絵図」全49枚をそれぞれの期間で展示していこうというものでございます。ただ、②の方に記載がございまして、この令和3年9月8日から令和4年1月30日の期間に関しましては、東北デスティネーションキャンペーンというものの関連企画として、実物の「雨ニモマケズ」手帳の公開というものも企画しております。続きまして、(2)「賢

治の世界」セミナーというところがございます。こちらに関しましては、先ほどもちょっとお話ししましたが、小中高生を対象にした出前講座というものです。別紙の資料3にあるのが今年度予定している「賢治の世界」セミナーです。19本予定してございますが、既に1から4までの4本は実施済みというところがございます。続きまして、資料5ページ目にまた戻っていただきまして、(3)「賢治の世界」ワークショップです。賢治さんの世界を体験するゆかりの地探訪等のワークショップを5回ほど開催ということなのですが、去る6月20日に高橋修さんという方を講師に招きまして、令和2年度事業報告でもありましたが、胡四王山散策というのをやらせていただきました。今年は定員を超えるくらいの応募がありまして、参加者アンケートでもすごく好評でございましたことをご報告いたします。残る回数に関しましても、詳細定まり次第、適宜情報発信等を行いながら実施してまいりたいと考えております。資料6ページ目をご覧くださいと思います。(4)ギャラリートークということでございますが、本年8月と来年の1月に当館学芸員によるギャラリートーク、特別展の内容などについてお話しできるようなものと考えてございます。こちらも詳細定まりましたら、情報発信等を充実してやっていきたいと考えております。2各種行事等のところですが、(1)開館記念行事というところですが、本年9月21日、当館の開館日に併せてやる予定で、内容はちょっと今、練っているところですので、こちら併せて定まりましたら皆様にもお伝えします。(2)「雨ニモマケズ」手帳公開記念行事、先ほどの東北デスティネーションキャンペーンの話に絡むんですが、こちらに関しては令和3年9月20日に林風舎代表の宮澤和樹さんをお招きいたしまして、講演会を開催する予定でございます。3記念館年報、記念館通信等の発行に関しては、令和2年度版の記念館年報の発行のほかに、9月と3月ころに記念館通信を発行いたします。4環境の整備についての(1)主な施設整備に関してです。1点目と2点目の展望台関係、こちらは先ほどもちょっと話が出ましたが、記念館の西側の展望台というかテラス部分ですが、こちらの老朽化に伴って雨樋と滑り止めマットの修繕をしようというものでございます。3点目の駐車場ガードレール交換というのは、駐車場の南側というか、さわやかトイレ側のガードレールを毎年除雪の際に雪で押してしまうので、山側の方に倒れてしまっているんです。これを今回、きれいに直したいというものでございます。最後の館内エアコン2台交換というのは、当館には18台のエアコンがあるんですけども、今回の2台というのは常設展示室内にあるエアコンでして、平成7年に設置したのももう古くなってしまったので交換させてもらおうというものです。ただ、これに関しましては、更新作業の際に来館者の皆様の安全確保をしなければならないということがございますので、本年12月1日から3日の間に更新作業を行う予定でございましたことから、この間は臨時休館とさせていただきますということを念のため申し添えるところでございます。このことに関しましては、近くなりましたら市の情報ツールを活用いたしまして情報発信をしっかりとやってまいりたいと考えております。最後となりますが、(2)周辺環境の維持管理というところですが、こちらに関しては、例年のとおり記念館の上り口の道路とか南斜花壇周辺の草刈り、植栽の管理というところ、あとはゆかりのバラの花壇整備というところをしっかりとやってまいりたいと思っております。私からの説明は以上のとおりでございます。よろしく願いいたします。

**中島会長**：はい。それでは、ただ今の令和3年度事業計画について、皆様からご意見、ご質問をお願いいたします。

**高橋委員**：「賢治の世界」セミナー、市内の小中学生、高校生対象と書いてあるんです

が、市の予算とかいろいろ制約があると思うんですが、花巻市以外の学校とかそういうところからの照会とかお願いとかあるんでしょうか。もしあったら、そういうほかにも広げるといような考えがあるのかどうかお聞きしたいのですが。

**清水館長**：基本的にこれは市内の小中学校を対象にした事業ですので、市外の学校にPRとかアナウンスはしていないものですから、当然問い合わせもございません。

**瀬川委員**：関連して、これは小中学校を対象ということなんですけれども、高校も農学校は入っていて、ほかの高校というのは対象にはならないんでしょうか。

**清水館長**：花農さんは賢治さんゆかりの学校ですので、入っているということです。

**瀬川委員**：それはわかりますけれども、基本的にとすることは、小中学校は対象で高校は、本来は対象外で農学校だけは賢治さんゆかり学校なので入っていると、そういうことですか。

**清水館長**：そうですね。

**瀬川委員**：高校は対象になるということはないんですね、今後も。

**中島会長**：「賢治の世界」セミナーの話。高校、一般を対象にとあるね。

**清水館長**：一般というのは、学校でPTAとか地域の方にも広報して、そういう方々であれば子供たちと一緒に受講できるという意味です。

**中島会長**：高校生も入っているというのは、花農だけということなんだな。

**玉山委員**：今のことについてちょっと思っているんですが、せっかく学校に行って講義をしているんですが、その後のサポートというわけじゃないんだろうけど、子供たちとか生徒さんから、やったことについてのアンケートとかそういったものはとったことはあるんですか。

**清水館長**：感想等をまとめて、毎年、冊子にしております。

**玉山委員**：せっかくやっていて、やりっぱなしじゃもったいないなと思ってね。実は、私は農学校の卒業生なんだけど、気になって同窓会の方には話をして、今年の6月に隠れて入れてもらったんです。その時に、生徒たちも話を聞いてこういうことがわかったけど、今まで全然知らなかったということをお話ししているんです。だから、そういうのをフォローするというか、育ててやっていけばもう少しいいのかなというふうに思ったものだから、それで今ちょっと聞いてみたところですよ。

**瀬川委員**：やっぱり高校というのは県立ということで、対象にはちょっとなりにくいという部分があるのでしょうか。

**中島会長**：これは、要望があればやれるでしょう。

**清水館長**：要望を聞いて、要望があるところにしか行っていません。

**中島会長**：要望があれば行くということで、例えば花北とか南とか東からも。こういう情報は出しているでしょうから、市内全域にね。

**瀬川委員**：どうしても小学校の時は学芸発表会とかあるんで賢治さんに親しんでいるんですけれども、中学校、高校になるにしたがってどんどん薄くなっていく傾向があるんで、できれば高校生も対象にしてやれるようなものがあればいいのかなと。これは記念館の事業として捉えていいのかどうか、これはまた別な問題だと思うんですけれども、何かそんな気がします。

**清水館長**：花農以外の高校については今後、検討させていただきます。

**中島会長**：「雨ニモマケズ」手帳なんですけど、この展示期間というのはいつですか。

**清水館長**：9月8日から21日までの2週間になります。

**中島会長**：どの程度の反響を呼ぶかは別として、かなり集中するんじゃないかなという気もしているんですが。どういう展示の仕方、ちなみにセキュリティもあるところですし、宮澤家としても気が気じゃないというところがあるんじゃないかという

気がしますが、どうなのでしょう。

**清水館長**：特別展示室に置いて、展示期間中はずっと監視員を配置します。宮沢賢治記念会に委託しまして、記念会さんに特別展示室の中に常駐してもらうという形です。ほかの特別展で直筆稿を展示するときと同じ警備の仕方です。そのほかに来館者が多分、多くなるだろうなということで、シャトルバスも走らせて対応いたします。あとは、矢沢振興センターさんの駐車場をお借りして、そこもシャトルバスで結んで来館者を送迎するというのを計画しておりました。ただ、どのくらいの来館者があるか、コロナの状況もあるので正直つかめませんが。

**中島会長**：期間限定ということですね。

**堀合委員**：関連して、記念講演の演題とかは決まっているのでしょうか。

**清水館長**：手帳に絡めたお話をいただく予定ですが、演題はまだです。

**中島会長**：よろしいのでしょうか。

**小原委員**：私たち、花巻に住んでいて、花巻がとにかく元気になるために多分、瀬川さんなんかいろいろなご意見だと思うんですけども、最近、花巻というと東高校、大谷翔平で、ちょっと前までは花巻というと宮沢賢治が出てきたのが、最近は大谷翔平、菊池雄星で、それもすごくうれしいことなんですね。そして、花巻を何とかと大谷がアメリカで言ってらっしゃるみたいで、そうしましたら、大谷翔平さんは奥州市の出身ですか、奥州市の市役所では今、うちの娘の情報ですけど、役所の職員たちが大谷翔平と書いた法被を着て、市役所職員が毎日何かやっているんだそうです。もうちょっと花巻も何かがんばって、大谷翔平は花巻東高校を出てるんだから、がんばってやったらいいのに。それで、大谷翔平じゃなくて、それこそ9月21日の命日の1週間ぐらいは「雨ニモマケズ」という法被でも着て、職員全員、宮沢賢治記念館がお祭りっぽく、とにかく元気に。こういう立派な冊子なんかを本当にいろいろ送ってきてすごいなと思っているんですけど、やっぱり全員がこういうもの、私なんか関係しているから読みますけど、普通に渡してもなかなか皆さん読むものでもない、かなり学術的になっているような、さっきの瀬川さんの指摘もありますけど、すべてなんか学術的に高度になり過ぎて、花巻市民が本当に花巻の宮沢賢治の生誕日はいつなのかとか、今そういうことをしているのを知らないですよ。だからそういう意味で、もうちょっと砕けて、普通の人たちにも何かアピールするような企画というか、法被でも何でもないので。いろいろこういう冊子は立派なものが出ていて、確かにすごい素晴らしい企画をしているんだと思うんですけど、なかなか浸透しないという。多分、こういうものもタダではないですね、印刷物も。何千枚と刷ればかなりの予算をかけていると思います。それでしたら、ちょっと賢治の生誕の1週間あたりにとにかく市民にアピールする何かそういうものをちょっと企画して、立派な学術的なものじゃなく、逆に本当に私たちはそういう賢治という町に生まれているんだという何かプライドが持てるような、普通の人たちがそんな学問的じゃないもので何かアピールする動きを、特にコロナ禍で沈んでますから、逆に外に出たりなんかするのは結構人気があるって、さっきおっしゃいましたね。そういうことなので、何を求めているかということ、こういう立派な冊子ばかりじゃないんですね。ですから、そこらへんを汲んでいただいて、ちょっと今年の9月あたりを考えていただければと、一意見ですけども。以上です。

**中島会長**：そのとおりだと思います。大谷がなぜというと、活躍もさることながら、みんな暗くて下向いているときに何か明るいニュースだと、そういうことにつながると思うんです。東日本大震災の時は、賢治さんがいろんなところで名前が、彼の

作品とか生き方とか。さすがコロナ禍においてはちょっと出番がないかもしれませんが。今、おっしゃったように生誕あるいは命日の8月、9月という部分で、何とかそういう意味では元気を出そうというよりも、花巻の賢治さんをこの際ということでPRするというのは非常に大事なことだろうというふうに思います。あまり派手にやっちゃうと別なことになるので、これはなかなか難しいんです。その中でやり方を考えればPRする機会にはなるだろうなというふうには思います。

**小原委員**：賢治の思想というか、名もない、別に学術的だったりそうじゃなくて、むしろ弱い農民のために自分が下りて行ってそこを広めた人ですから、あまり学術的にならないで、本当にそういう人たちのためにという部分もちょっとあっても、賢治はすごい人ですから、おそらく下火になることはないと思います。何百年後でも賢治の作品は読まれると思いますけれども、ちょっと暗い時期なので、少し学問的、学術的じゃない賢治のアピールの仕方をぜひお願いしたいというのが私の意見でございます。よろしくをお願いします。

**中島会長**：皆さんからそのほか。

**堀合委員**：今日は、私たちたくさん意見とか質問を言わせていただいたわけですが、賢治記念館さんは限られた予算、限られた人の中でいろいろ事業を企画してやったださっているわけですが、賢治記念館として市民の人たちにできればこういうことをやってほしいけどなというふうな、どれほどのお手伝いができるか、すべての市民の代表が集まっているわけではないんですが、私たちの賢治記念館として花巻市民のこういった援助があればというのがあれば、率直にこういう機会に話してもらえれば、決して賢治記念館の職員さんだけの問題ではないと思いますのでいかがでしょうか、もしありましたら。

**小原委員**：本当にそうですよね。もう60過ぎた私たち、結構時間ありますし、どうぞボランティアでやりますので使ってください。

**清水館長**：今、当館で何かボランティアでお願いしていることがない状況なので、ご意見はごもっともだと思います。当館のことに関わらず、賢治さんに関わりたいという市民の方は多かれ少なかれいらっしゃると思いますので、そういう方々に実際に協力していただくような機会を作り出すのも当館あるいは市の使命なのかなと思いますので、ちょっと検討させていただいて、やれることがあったらやりたいと思います。ありがとうございます。

**小原委員**：市民が何かをやったとき、シルバー大学ですか、何かああいうところでも賢治のことになるといって皆こうやってそっぽを向くんだそうです。そうなのって私この間驚いたんですけれども。割と時間がある、でも勉強したいという人たちのシルバー大学の、何十人いるそうですね、あの人たち。でも、賢治のことはあまり興味ないというんですね。それは何だろう、何かが間違っているなとちょっと感じております。

**市川生涯学習部長**：今のお話、先ず一つ、60歳以上の方々がやっているのは、シニア大学と言います。2年間普通の勉強をして、3年生から学部分けして、その中でボランティア学部というのがあります。賢治の関係を少し勉強しようという人たちもあります。ありますが、そこに入っている方々はやっぱりかなり意欲的に取り組んでおられて、いろいろ賢治の研究も自らされているグループなので。ただ、全体で2百何人もいる中では、皆さんが賢治について取り組みたいというわけでもないなという認識はしております。あと、我々市としては、先ほど小原さんがおっしゃったとおり、明るい賢治も出していきたくところなんですけど、なかなか難しいところもあって。この八幡の田んぼアートなんかは明るい話題ですよ。こういう賢治に取り組

んでいただいているのが皆様方の団体だと思っていましたので、こういう活動をどんどんしていただければ、我々はそれで大変ありがたいなと思っていますし、それを賢治のイベントカレンダーなどで、賢治まちづくり課で紹介したりなどして、やはりあれも好評で、やっぱりいろんなイベントをやっているよと、なかなかコロナの影響があるんですけども、コロナがなければもっとやりたいなというので、すごく認識も高まっているところなので、いろいろイベントをぜひ皆様方で、明るい賢治あるいは研究の方に進むというのもあっていいと思います。いろいろそういうのをやっていただければありがたいなと思いますので、ぜひ地元で。

**小原委員：**イベントカレンダーはとても今年度、また見やすくなっているですね。東京に送っています、私は。

**瀬川委員：**今の話に絡んでなんですけれども、せっかくコロナだからというところちょっと語弊があるんですけども、宮沢賢治はアウトドアな人でもあったと思うんです。せっかくコロナなので、屋外を使った、ワークショップはどちらかというと屋内が中心になると思うんですけども、例えば南斜花壇をもっと活用したワークショップを今後検討していくのであればそういったものも含めて、本当は今日もせっかくこういうふうに各研究団体というか、花巻だったり大迫だったり東和だったり石鳥谷だったりからの方々が集まっているので、そっちの方の協力も得ながらこういうワークショップを進めていくのも一つのやり方なんじゃないのかと、そっちの方に振りながら一緒に検討していくというのも、アウトドアということも絡めてあれば、何かここで生まれてくるんじゃないかなとちらっと思ったので、ぜひ検討できることであればやっていただきたいなと思います。

**清水館長：**はい、ご意見としてお伺いいたしました。

**中島会長：**この後、皆さんの所属とか活動とか、簡単に触れていただく時間を設けたいと思いますので、心の準備をお願いします。

今日は審議会ですけれども、審議会の後にも皆さん審議会委員というお立場にあるので、直接館に行って、これこれこうだというのは一向にかまわないと思いますので、ぜひご意見、ご要望をお伝えいただければと思います。

それでは、事業計画について、ご承認いただくということによろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

**中島会長：**ありがとうございます。

議事は終了しまして、さっき言ったようにご出席の皆さんから活動の一端を瀬川さんからお願いします。

**瀬川委員：**宮沢賢治花巻市民の会では、月に1回の例会ということで、第三水曜日にまなび学園で集まっています。これは、まなび学園は2時間以内だったら使えるとのことですので、それで今やっているのは、直近では花巻図書館をどうするかと、これを最近ちょっと集中していろいろな意見を出し合っていて、市の方からも担当者の方とか市川部長にも来てもらったりしていろいろな話をしているところがございます。本当は今、輪読というか読書というか、全体で読んでいるのは短歌ですね。中学、高校時代の短歌をみんなで読みながら、この風景はどこだろうとか、割と盛岡とか旧制中学校や高等農林の時代に詠んだ作品が多いので、多分これはあそこから詠んだ風景じゃないとか、我々岩手県民、花巻市民だからわかるような風景を照らし合わせながら読み解いていきます。それと、賢治カフェということで、上町にある賢治の広場で週に1回、土曜日に賢治作品の朗読であるとか、あとは、今は賢治と東京ということをやテーマに講演をして、2時間ぐらいのところですけども、これを月に1回やっております。あとは今、菊池捍邸の公開に併せ

て、関連して詩を朗読したりとかやってる方もいますので、そちらの方の協力とか、その広報、宣伝みたいなこともやっております。こんなところです。

**中島会長**：はい、ありがとうございます。続いて早池峰賢治の高橋さん、お願いします。

**高橋委員**：IBCテレビの「わが町バンザイ」で塩野さんという方を放送したんですが、特にも大迫みたいに人口減少の激しいところにああいう若い女性が来て活躍していただけるととてもありがたくて、塩野さんだけに限らずこれからもそういう若い女性でなくてもいいんですが、男性でも構わないんですが、ぜひそういう形でどんどんそういう方が賢治を広めていただければ非常にありがたいことだと思って、これからもよろしくお願ひしたいと思っております。以上です。

**中島会長**：はい、ありがとうございます。石鳥谷賢治の会の玉山さんお願いします。

**玉山委員**：詳しい資料を今日はちょっと持ってこなかったんですが、大きい事業としては三月祭とあって、石鳥谷で賢治が肥料相談所をやったわけなので、その関係の日があります。それと、やまなし祭、土地を借りてヤマナシの木を植えて、そこで「やまなし」についての輪読をしたりしております。賢治葛丸祭、これは10月だと思ったんですが、やっています。去年は全然できなかったんですが、それでもやっぱり何かしらやった形を残さなければならないなということで、役員だけという形で、あまり人を多くすると密だとなりますので、そういう形でやって、この三つだけはやってきましたし、今年もそういう形でやりたいなと思っています。さっきからの話に関連すると思いますが、賢治葛丸祭については、この時、石鳥谷町内の小中高の生徒さんから賢治さんへの手紙というのを書いていただいて、今まではその場で読んでいただいたんですが、これもちょっと集まりがなくなったので、今年は、手紙は書いてもらうけど機関誌に掲載をして、皆さんにご報告するかということにしていました。あとは、賢治ゆかりの地巡りで方々歩いておったんですが、これもコロナの影響で去年は中止になりましたが、今年どうするかは検討中なんです、なかなかまとまって歩くというのはちょっと世間の目が厳しくて大変なんです、何とかして続けていきたいなというふうに思っているところです。それから、さっき持ってきた田んぼアートは、私が八幡振興センターの方をやっていたときに地域の活性化ということでやったやつなんです、いずれこれも賢治さんを知っていただきたいというのが一番の根底にありまして、名前は知っているけど作品とか何かについては知っている人は少ないということで、これも題材を通しながら少しでも勉強して知っていただければなという形でやっているところであります。以上です。

**中島会長**：はい、ありがとうございます。楽しみにしています。では、東和の小原さん、お願いします。

**小原委員**：宮沢賢治東和の会は、毎月第三水曜日、例会を持っていまして、去年のコロナ禍でも常時集まるのが十二、三名ですので、広い部屋でかなりイスを遠くにして、集まりを休まずやっておりました。今年の直近でやったことをお話ししますと、5月の第三水曜日に現地集合で菊池捍邸に集まりまして、木村清且さんからお話を伺ってきましたし、この間、6月16日の第三水曜日は、発足7年目ですけど、毎年1回宮沢賢治にまつわる講演会をしているんですけども、去年はさすがにしませんでした。今年はどうしようかと思ったんですけども、有線や何かに入れたりいろんなところに広告を出さないということで、30名くらい集まりまして、東和福祉センターというところで行いました。講師の先生は、元岩手大学の岡崎正道先生という方をお呼びして、去年お願ひしていたものを今年に振り替えてお願ひしました。30名ぐらいいましたけれども、結構声をかけない人も何人かどこかで目にしたのか、

聞いてきた方がいとお話を聞いたと言って帰られましたので、まったく何もやらないというよりは気を付けながらやっていくということをこれからも。来月は普通の例会で宮沢賢治の「雨ニモマケズ」を少しきちっと読もうというのと、岡崎先生が本を書かれたその中に「銀河鉄道の夜」の裏話というものをコピーしたものをくださいましたので、それについて皆でちょっと話し合いたいというようにしております。8、9月はいつもお休みです。9月は市で賢治祭だとかいろいろなことがあって忙しいものですから、8、9月はお休み。10月は雫石に行こうと思っております。雫石の賢治を語る会の関さんをお願いしております。そんなこんなで、集まって賢治作品を読むばかりじゃなくて、日のいい時は外に出て交流を、去年は賢治と石のミュージアム、それこそ瀬川さんがさっきおっしゃったけれども、館長自ら案内していただきまして、碑もありますのであの辺を散策したり、今年は大体そういう形です。以上です。

**中島会長**：ありがとうございます。ユネスコ協会の堀合さん、お願いします。

**堀合委員**：ユネスコ協会は、今から55年前に宮沢賢治の教え子の照井謹二郎という人が賢治の「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」というのと世界の平和を理念とするユネスコと合致するんじゃないかということをつくった会なんです。賢治に限らず広く平和に関することとか、あるいは教育支援とかをやっておりますが、会としては毎月役員会を設けておりますが、そのほかに賢治についての牛崎さんとかいろいろ講演をいただいたり、平和の講演をいただいたり、あとはティータイムという読書会を年間5回開催しております、2冊のうち1冊は賢治作品を必ず取り上げて自由にお互いに読後の感想を言おうという会を開いております。市民でなくてもどなたでも参加可能ですし、イベントカレンダーにも載せていただいております。そういったところです。以上です。

**中島会長**：ありがとうございます。ご近所代表で多田さん、お願いします。

**多田委員**：本当に地元でして、すぐこの下に住んでいる多田といいます。特に私は賢治の会活動をやっておりませんが、今までの中でちょっと感じたことをしゃべってもいいですか。一つは、「雨ニモマケズ」の手帳公開というのは今回初めてなんでしょうか。

**佐々木副館長**：初めてではないです。

**多田委員**：はい、わかりました。それから、常設と特別展示とあるんですけども、先ほども常設は専門的だとかのご意見もありましたが、確かにそういう声も私の方でも聞こえてくる場合があります。瀬川さんの気軽に親しめるような感じというの、確かにそういう声もありました。ただ、特別と常設はすごくいい組み合わせだと思っております、特別展というのは毎回年何回かやるんですけど、こういう材料というのはかなり次から次と出てくるような材料はあるわけですね。大変ご苦労さまですという感じです。特別展示室から窓のない扉がありますけれども、あそこから出るとすごい景色がいい眺めがあって、あそこはすごいいいなと私は思っています。意外とあそこを出ないで戻ってくる人もいられるかもしれませんけれども、ぜひ花巻を眺めるには眺望のいいところですので、ああいうところを眺めていただければなど。あそこを出て外に出るときに、賢治記念館の入口の収蔵館と言いますか、蔵の建物がありますけれども、あそこから胡四王山の方に向かいますと、ちょっと私、土曜日に行ってみたんですが、木がちょっと伸びている感じがして、できれば胡四王山の方の見晴らしがよくなるように木を間伐するとか、予算とかこちらの管轄じゃないかもしれませんが、そうするともっと眺望もよくなるのかなと思いました。ちょっと話がずれるかもしれませんが、最近、ふるさと納税というのがあります。

まして、例えば賢治記念館を指定して納税とか、もしそういう状況がわかれば。どうなんでしょう、指定して寄附されているとかってあるものなんですか。答えられなければ、それでもいいんですけども。

**佐々木副館長**：あるそうですし、昨年度も新聞報道とかにあるように総額で29億円でしたか、今までにない規模の金額があるそうなんです。そのうち、賢治関連にどのくらい振り分けられているかはちょっとわからないですけども、そういう財源を活用できるかもしれません。

**多田委員**：ぜひ、魅力のある記念館にして欲しいです。以上です。

**中島会長**：最後に私ですが、振興会の会長をやっています。その中の主要事業に高齢者大学というのがあって、今年の開校式の記念公演は浅沼利一郎さんを大迫からお呼びして、宮沢賢治と大迫早池峰山、浅沼さんをご存知の方は多いと思いますが、宮沢賢治が70、80歳になればあんな感じかなという朴訥な感じで、でも結構皆引き付けられて聞いていました。歴代の開校式には、市民の会会長の阿部彌之さんとか賢治記念館の牛崎さんとか、地元としてはやっぱり知りたいなとかもっと覚えたいなという部分で、賢治さんは非常にいい位置付けになっていますので。専門的ではないところがいいんですね、高齢者の皆さんには。わかっているんだけど、実はよくわかっていないところが私どもの狙い目なんです。そういう意味では、今後とも使わせていただきたいというふうに思っています。

ひととおり議事は終わりましたし、その他の部分でお話をいただきました。私からは事務局にお返しします。以上です。

**清水館長**：はい、ありがとうございます。本日、ご協議いただきます案件は以上でございます。

それでは、次第4のその他の方に移ります。事務局では何もごまかせけれども、委員の皆様から何かございましたら、ご発言をお願いいたします。

ないようでございますので、以上をもちまして、宮沢賢治記念館運営審議会を閉会とさせていただきます。本日は大変ありがとうございました。